



JFVSS Newsletter

学会

今年のコロラドというかアメリカは全体的に猛暑らしく、こちらにしては珍しく寝苦しい日々が続いております。先月行われたデンバーのACVIMフォーラムでの発表も無事終わり、また、日本から学会にいらしていた先生方とも大変楽しい時間を過ごさせていただきました。来年の学会ではいよいよ専門医に向けた第一関門の一般試験がありますので気合いを入れて頑張っていこうと思います。

東大の院生の頃から海外で学会発表をする機会をたくさん頂いて、いろいろな学会に参加してきました。自分の感じる日本と海外の学会の大きな違いは、海外の学会では研究発表（海外では症例発表はない）がとても充実していて、また参加者も研究発表を楽しみに聞きに来ている人が多いところです。最近では日本でも、ある程度症例数を集めた臨床研究が増えてきていると思いますが、まだまだ症例発表の数が多く、学会の参加者も教育講演を目当てに参加している人が多いのではないかと感じています。日々の診察で出会う珍しい・難しい症例を経験することは臨床家として重要です。ただ、残念ながら症例発表では研究・臨床は進歩していきません。日々の診察を通して感じた疑問などに仮説を立て、周りが納得する研究を計画し、症例を集め、発表することで臨床は進歩していきます。そしてこのような臨床研究は日本の一般開業医の先生でも十分に行う事はできていると感じています。症例数が問題なら、学会・研究会などを通じて複数の病院で協力し合い症例を集めることも可能でしょう。自分が無事専門医になった際には、日本の臨床研究の発展にも協力していけたらと考えています。新しい情報は海外から取り入れるという受け身の姿勢ではなく、日本から新しい情報を海外に発信していくという気概で頑張っていけば、世界から見た日本またはアジアの小動物臨床の地位は大きく向上していくと思います。

佐藤 雅彦

